

英語公用語 豊富な人口 安い人件費

フィリピン 人材大国

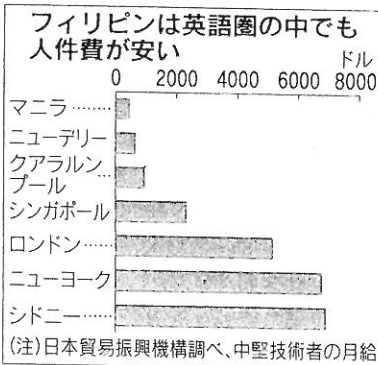
フィリピンが世界の「人材供給大国」に浮上してきた。メイドの出稼ぎで有名だったが、最近は船員、看護師、エンジニアへと多様な職種を輸出。一方でフィリピン人のスキルに期待したコールセンターなどの進出も相次ぐ。英語を公用語とする豊富な低人件費の労働力が世界中のビジネスを引き上げ、フィリピン経済の好調を支える。

新入生を歓迎する日本郵船の商船大学の学生。船長などの幹部候補生となる(1日、ラゲナ州)



日本郵船 船員の7割占める

企業名	事業内容
日本郵船	商船大学による船員の育成・確保
エキサイト	システム開発など
米IBM	コールセンターなどの業務委託
米JPモルガン・チェース	事務処理などのバックオフィス
米フルア・ダニエル	プラントなどの設計、建設



本物の船と同じ機材の操縦シミュレーターに、豪華客船「飛鳥」の客室。日本郵船がマニラ近郊で運営する商船大学には、最新鋭の教材と設備がそろつた。2007年

米プラント 世界最大の拠点に

フィリピンの人材が注目されるのは、政治の安定をきっかけにフィリピンという国が外資に再評価されていることも大きい。フィリピンは東南アジア諸国連合(ASEAN)をつつた5カ国の一角で、域内の先進国だった。しかしマルコス政権の長期化、革命やクーデターなど政治が落ち着かず、経済も長く停滞した。

大学進学率28% / 平均年齢23歳 外資が評価 投資倍に

つた。今年1~3月の実質フィリピンの人材は①英語経済成長率は前年同期比7%と、ASEANトップだ。公用語が英語であるうえ、国連教育科学文化機関(ユネスコ)によると大学進学率は28%とインドネシア、ベトナム(20%前後)などを上回る。また国際通貨基金(IMF)によるとフィリピンの推定人口は9700万人で、15年には1億人を超える。平均年齢は23歳と若く、労働力人口が増える「人口ボーナス期」が当面続く。

船員約81000人の7割強を占める。欧州大手もフィリピンでの人材獲得に動く中、負けないようにと新入生の定員を1.5倍の1800人に増やした。東京ドーム1個分の敷地に訓練施設や寮を新たに建設した。

◆多様な職種育つ フィリピンは国内の働き口が少なく、メイドや建設労働者などの出稼ぎが多いことで知られてきた。11年末時点で人口の1割に当たる1000万人と今も海外で働く人は多い

が、最近では輸出する人材が多様に、職種も高度化し始めた。1月のアルジェリア人質事件で多くが犠牲になったように、プラント技術者として中東やオーストラリアなどに渡るフィリピン人は珍しくない。看護師も増え、3月にはフィリピン、ドイツ両政府が独自のフィリピン人医療従事者の雇用を支援することで合意した。

英語が公用語となつているフィリピンは、先進国はもろろん、マレーシア、インドなどより英語が、最近では輸出する人材が多様に、職種も高度化し始めた。

性を指摘する。フィリピンには日揮や千代田化工建設も拠点を保有。プラント設計のハブになりつつある。

電子版に関連特集、過去の記事も掲載 Web 刊↓特集↓アジアBiz

マニラ 佐竹実